



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町三丁目1-1
(仙台第一生命ビル 5階)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

第79回定時総会

2022年5月27日(金)10時から仙台第一生命ビル6階会議室を会場に、第79回定時総会を開催しました。議決権の行使者は、正会員数234名のうち、会場出席者27名、書面決議者74名及び代理人に議決を委任した者33名の合計134名で会員数の過半数の定足数を満たし、総会は成立しています。

会議は見上一幸会長が議長を務め、いずれも会長が作成し4月22日の理事会で承認された次の4議案について審議が行われました。

第1号議案2021年度事業報告書及び第2号議案2021年度決算書類等については専務理事から、第3号議案2021年

度監査報告書については監事から報告があり、審議の結果第1号議案については了承、第2号・第3号議案については承認の決議がなされました。

第4号議案2022年度事業計画書及び収支予算書(案)については専務理事から報告があり、審議の結果了承の決議がなされました。

なお会議は、新型コロナウイルス感染症が収束していないため会場入り口での消毒、ソーシャルディスタンスの確保、マスクの着用等の感染拡大防止対策を徹底して進められました。(専務理事 赤塚吉雄 記)



キリバス共和国のコロナ禍へのご支援に感謝

仙台ユネスコ協会が、現地に民間ユネスコ協会設立を支援しているキリバス共和国でのCOVID-19感染急拡大の情報を受け、1月に急遽支援策を検討、協会内外に支援を募りました。キリバス共和国内の医療体制やマスク・手袋・アルコール消毒薬等感染予防物資不足の状況から、皆様から寄付金や寄贈物資をいただき、以下のような支援を行いましたのでご報告いたしますと共に、心より感謝申し上げます。

(株)アイリスオーヤマ様からのマスクの贈呈式を3月1日に事務局で行い、その様子がtbcニュースで報道されました。

支援物資を積んだ船は3月4日に横浜港を出港、3月12日にキリバス共和国に到着したとの報告を、キリバス教育省ユネスコ国内委員会のローレンシ・エリタイ教育事務次官からメールでいただきました。キリバス共和国内では、新聞やTVで大きく報道されたとのことです。

(プロジェクトリーダー 内藤恵子 記)



贈呈式の様子を伝えるtbcニュース



キリバスユネスコ国内委員会に届いたマスクと手袋
(右端がローレンシ教育事務次官)



キリバスニュースター紙の報道
(輸送途上)

- | | |
|--------|--|
| 【マスク】 | ・(株)北翔(北海道江別市)/フィジー共和国名誉領事の清水誓幸様から10,000枚
・当協会団体会員の(株)アイリスオーヤマ様から9,400枚 |
| 【ゴム手袋】 | ・仙台ユネスコ協会から3,000枚 |
| 【千羽鶴】 | ・誇雀会松陵健人万年青組(文化交流会参加の雀踊り団体) |
| 【寄付金】 | 358,000円(輸送費に充当)
個人会員25名と法人会員1社から計258,000円、当協会から100,000円 |

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

SALON & ZOOM 講座

2021年度最終回となった今回の講座は、2月26日(土)に、二部構成で開催しました。

【第一部】海洋プラスチックごみ対策について

第一部は「海洋プラスチックごみ対策について」と題し、環境省東北地方環境事務所資源循環課長 草刈耕一氏にご講話いただきました。世界各地の海岸に見られる漂着プラスチックごみは、海洋環境、船舶航行、観光や漁業、沿岸域居住環境などへの影響があること、マイクロプラスチックが生態系に及ぼす影響が懸念されていること、観光地と漁業収入の落込み、海の清掃コストなどで、世界全体で年間130億ドルの経済損失を生み出しているということなど、豊富な資料をもとにお話しいただきました。「2050年に、世界の海は魚よりプラスチックの方が多くなる」ということにならないように、調査、新たな国際枠組み作り、法整備などが進められていますが、私たちにもできることを認識し、行動する必要性を実感する機会となりました。



第一部講師の草刈氏 詳細なデータをお示しいただき、行動の必要性を強く感じさせられました

【第二部】家庭でできるSDGsの取組&みつろうラップ

第二部は「家庭でできるSDGsの取組&みつろうラップ」と題してスズノキ堂の鈴木麻里氏による講話とみつろうラップ製作の実演でした。みつろうラップは、洗って繰り返し使える上、食品の変色を防ぎ長持ちさせる力があるので食品ロスの解消になり、使用後は土やコンポストに埋めることで自然に還すことができます。主婦、母親目線で感じ、大切にすることが「地球も私たちも心地よく暮らす」ことになると思い至った経験から、無理なく続けられる暮らし方をご提案いただきました。この出会いを誰かと話題にし、自分のできることから始めてみることは、私たちの生活が環境問題を解決することに繋がると理解した講座でした。(参与 砂金みどり 記)



第二部講師の鈴木氏 実物での実演に、これならできそうと思った方もいたのでは？

鹿折小学校の児童 キリバスへ支援募金

キリバスプロジェクトの一環で、キリバスのWar Memorial小学校と交流をしている気仙沼市立鹿折小学校の児童が、キリバスのコロナ禍での医療物資不足を知って、募金活動を行いました。

5.6年生の児童会(若草会)が中心となり全校児童や先生方、家族に声がけして集めた募金を、仙台ユネスコ協会を通して交流の講師兼通訳をしていただいたケンタロ・オノ氏に贈って欲しいとの依頼で、ケンタロ氏と共に鹿折小を訪問、校長室で児童から直接ケンタロ氏に贈呈する場を設定していただきました。募金には、交流のコーディネートをいただいた気仙沼ESD/RCE推進委員会の皆様にもご協力いただいたとのことです。



校長先生立ち会いのもと、集めた募金をケンタロ氏に手渡す児童たち

今回中心となって募金活動をした児童たちは、低学年の頃から「小さなユネスコ隊」を結成、自分たちでできるユネスコ活動を行ってきたとのこと、7月9日の民間ユネスコ運動の日に、児童会への感謝状を贈ります。

(プロジェクトリーダー 内藤恵子 記)

YouTubeチャンネルを 開設しました!

YouTubeに「Sendai UNESCO Association」のチャンネルを開設し、動画を配信しています。現在はキリバスの人々へのメッセージと日本の伝統芸能を披露した文化交流会の収録動画、青年部が作成した日本の春夏秋冬の伝統行事や風景の紹介と青年部メンバー紹介の動画が配信されています。今後もYouTubeを活用した情報発信をしていきますので楽しみにしてください。

チャンネルは下記のURLになりますが、仙台ユネスコ協会のホームページからもご覧になれます。(事務局 國分公正 記)

https://www.youtube.com/channel/UCfwe3UvmXU3qQqxTNv_ghAQ



ユネスコ会員企業紹介

(株)プランニング・オフィス社

情報で人と街と未来をつなぐ ～雑誌『りらく』の取り組み

プランニング・オフィス社は、出版・広告・各種プロモーション事業を通して、行政や企業から一般市民に至るまで、様々な情報発信やコーディネート業務を展開しています。その中で大きな柱となっているのが、雑誌『りらく』の編集・発行です。

『りらく』は、1998年に創刊された月刊誌で、「仙台発・大人の情報誌」とのキャッチコピーにあるように、子育てが一段落した世代の方々が人生をより豊かに送れるような情報を提供し続けています。「旅」や「食」という定番の情報はもちろん、人間情報誌として「人」にスポットを当てていることも大きな特徴です。さらに近年は「歴史」・「文化」にも力を入れています。例えば、伊達政宗公に遡る歴史を持つ「貞山運河」を



月刊誌『りらく』の他、企画・編集力をいかしたプロモーションメディアも

特集し、宮城県の貴重な土木遺産ともいえる運河の魅力を多くの方々に知って頂くと共に、「一般社団法人 貞山運河ネット」を組織しその事務局を務め、熱い思いを持つ賛同者の方々と、運河を地域の活性化につなげる活動も始めました。

ご挨拶が遅れましたが、私はこの6月から『りらく』の編集長を務めることとなりました渡辺祥子と申します。仙台を拠点にフリーアナウンサー・朗読家として30年以上活動しておりますが、この地で頂いてきた宝物のようなご縁や多くの気づきをこの地域の情報誌に反映させ、更なる地域貢献が出来ればと考えております。上述の「貞山運河ネット」では、特集誌面を独自の冊子にして地元の学校に寄贈したり、観光資源となりうる形を模索しながら各方面に働きかけをしていますが、このように情報の発信を軸に、そこから更にアクションを起こし—人と人・人と街・そして過去と今、未来をつなぐ—アプローチを積極的に行っていくと考えています。今後も皆様方からの貴重なご指導ご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い致します。



記『りらく』編集長 渡辺 祥子
(フリーアナウンサー・朗読家)

S. B. H司法書士事務所

代表司法書士 千葉 浩



SDGsへの取り組み

当事務所は創業13年目、総勢10名の司法書士事務所です。

S. B. Hとは、Sendai(仙台で)、Best(一番)、Honesty(誠実な)という意味です。

これを根幹としてSDGs(持続可能な開発目標)を達成するための取り組みを職員一人一人が日々心掛けて実践しておりますが、今回、執筆の機会を頂戴しましたので、当事務所のSDGsを達成するための具体的な取り組みの一部をご紹介させて頂ければと思います。

「貧困をなくそう」

生活苦や借金整理の相談の際には、現在直面している問題を解決するだけでなく、借金を繰り返さないで将来の生活を営んでいけるようアドバイスをさせて頂いております。具体的には、所有されている財産、日々の生活収支、その方のご家族の状況、そして今後の暮らしの希望をお伺いし、相談者のライフプランを提案しております。

「質の高い教育をみんなに」

元々大手予備校でも教壇に立っていた私は、難しいことを如何に分かりやすくお伝えすることに日頃から心掛けております。専門家へのセミナーだけでなく、不動産会社様、福祉関係者様、地域の高齢者様向けのセミナー(相続、後見、民事信託、遺言等々)のご依頼を頂いております。もちろん、コロナ対策を施しております。

「ジェンダー平等を実現しよう」

女性が活躍できる職場環境づくりを大事に考えており、積極的に女性を採用しています。また、産休・育休取得がしやすい職場環境づくりを行っており、子育てしながら働きやすい環境づくりに心掛けています。

「パートナーシップで目標を達成しよう」

お客様からの依頼を受けて業務をしていく中で、司法書士だけでは解決できない事案問題が多々ございます。おひとり暮らしの方の葬儀、納骨、遺品整理の問題等々、複数の士業や遺品整理業者との連携をしていかないと解決できない事案について、ワンストップサービスを提供させて頂いております。

これからも持続可能な社会の実現を目指して日々業務に励んでいく所存です。

青年部だより

キリバス共和国ユースへの動画制作

青年部の国際交流活動として、キリバスプロジェクトとタイアップして制作した動画が、キリバス国内で大反響だそうです。制作を担当したのは、仲海渡代表と高校生の吉田彩音さん、佐藤柊吾さん。青年部メンバーが写真提供やメッセージ動画で協力、キリバス語翻訳をケンタロ・オノさん、動画編集は阿部清人さん(今年の民間ユネスコ運動の日の「防サイエンスショー」講師)のチームワークで完成しました。

キリバス語のテロップに拘ったケンタロさんの思いが、キリバス国内での大反響に繋がったのですが、気候や文化の違いを踏まえた名翻訳でした。Spring、Summer…と英語表記なのは、四季のないキリバスには季節を表すキリバス語がないから。「Kaisen-don(海鮮丼)」「Okuizome(お食い初め)」「Shichi-Go-San(七五三)」等々、特に説明が難しかったのは若者文化「Purikura(プリクラ)」だったそう!文化背景を含め端的に翻訳するケンタロさんの力量は素晴らしいの一言。交流とは互いの文化の違いを理解し合うことから、を実感した活動になりました。

動画中の風景や学生たちの姿を、キリバスの若者たちはどのように感じたでしょう?

日本語で語りかけたメッセージが実現する日が一日も早く来ることを願っています。

(青年部担当 内藤恵子 記)



A oreaki ara taboni te mwaiei ma tsunami aika a moani te korakora ni Maati 2011 ike a timgaki tai kaawalaika urubekebeke ao koraki aika a bua maiuia naron ae n katoa ririki

東日本大震災の犠牲者への鎮魂の灯籠流しも伝えました



"Purikura" bon teuana mai ikuakon mamaten hanoia roron kirakran Taban

プリクラ!



Shichi-Go-San (Katekeraoan Koron 5 ao 3 te Ririki)

a katekeraoak itaei aika a koro 3, 5 ao 7 aia ririki ike a kawara Shrine ma temboro ni bubuti nakon te maamaaun maiuia ao te kabwaia

~七五三の紹介~この可愛い子は仲代表です



Te Ngaina =E a boo te Reira

A bon kaea te reirei a te ngaina

制作の高校生2人、日本の高校生は勉強してるよ!

「ユネスコカレッジ講座15年の歩み」

資料発刊について

仙台ユネスコ協会では、宮城の地域遺産・文化財の保存継承を念頭にこの事業を行っており、その一つの事業として「ユネスコカレッジ講座」があります。この度その事業に関わる資料が散逸することのないように2006年から2021年までの活動の記録「ユネスコカレッジ講座15年の歩み」としてまとめました。その概要は、「仙台藩の伊達文化」「平泉及び松島関連の文化遺産」「古代史跡・多賀城の奈良平安朝に学ぶ」「慶長遣欧使節」として7年間にわたって外部から講師を招き現地での視察や研修を行い、その後「貞山運河シリーズ」として4回にわたり実施した詳細な記録であります。

変化の激しい時代だからこそ、自分たちの地域文化や歴史を学び伝えることは異なる文化を互いに尊重しようとするための基礎になると思います。

本資料は今後の活動の糧と更なる活動の発展を願ったものであり、仙台ユネスコ協会に蔵書として大切に保管し閲覧できるようになっております。ご来会の折りは是非ご覧くださいませようご案内申し上げます。(副会長 西條清和 記)

ウクライナ人道危機 支援募金 報告

当協会は2022年3月1日に、ウクライナ国民が受けている危害に思いをいたし、声明を発しました。そして、危害を受け難民化しているウクライナ国民に支援金を届けることとし、募金をお願いをしました。5月27日の募集最終日までに276,000円が集まりましたことをご報告致します。募金は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟へ委託し、現地のユネスコ協会や支援団体を経由し、民間らしい支援の仕方で行います。募金の目的を理解し、温かい支援を頂きました皆様、ありがとうございました。

(事務局長 針生真由美 記)

これからの行事予定

- 民間ユネスコ運動の日
開催日: 7月 9日(土)
- 第78回日本ユネスコ運動
全国大会in木更津
開催日: 11月26日(土) 予定
場 所: かずさアカデミアパーク
- 2022年度東北ブロック研究大会
主 催: 青森ユネスコ協会
開催日: 10月 8日(土) 予定
場 所: ウエディングプラザアラスカ
- SALON&ZOOM講座は2022年度も継続します。2ヶ月に1回程度開催し、メールで随時お知らせいたします。

会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口) 年会費	20,000円
個人会員(一口) 年会費	5,000円
青年部会員(一口) 年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	82
個人会員	138
青年部会員	19
合 計	239

(5月末現在)

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
伊藤 律子 岩山 浩一
菊池 健一 佐藤 皇季
千葉 雅保

【編集後記】

ユネスコ会報469号をお届けします。2月から5月までの活動報告をまとめました。5月27日には、第79回定期総会が無事に執り行われました。各講座はオンライン開催で継続しています。仙台ユネスコ協会は親しみのある活動をしています。お仲間に加わって一緒に活動しませんか。

仙台ユネスコ協会編集長 小泉 知加子